

氏名	野 田 知 之
授与した学位	博 士
専攻分野の名称	医 学
学位授与番号	博乙第 3502 号
学位授与の日付	平成12年9月30日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Clinico-radiological study of total knee arthroplasty after high tibial osteotomy (高位脛骨骨切り術後人工膝関節置換術症例の検討)
論文審査委員	教授 清水 信義 教授 田中 紀章 教授 清野 佳紀

学位論文内容の要旨

高位脛骨骨切り術（以下 HTO）は有用な方法だが、人工膝関節置換術（以下 TKA）に移行する症例もある。HTO 後の TKA には、脛骨近位端変形、膝蓋骨低位化等の問題点があり、その臨床成績では一定の成績をあげ難い。HTO 後の TKA 症例23例28膝について問題点を検討し、成績不良因子を調べた。TKA 後臨床成績は、関節可動域：平均90°、三大学試案：平均72点であり、70点以上の成績が得られたのは61%であった。TKA 前の脛骨近位端は、外側偏位・外側傾斜の増強、joint line の低下、膝蓋骨低位化を示した。外側偏位、膝蓋骨低位化は TKA 後も不変であり、長期観察が必要と考えられた。外側偏位、膝蓋骨低位化は Maquet 法の方が Coventry 法よりも顕著であった。成績不良因子として、TKA 前の脛骨関節面の後方傾斜増強、TKA 前後での joint line 低下が認められた。HTO 後の TKA においては、様々な手術時技術的困難が存在し、その臨床成績は primary TKA に比しやや劣る傾向がある。

論文審査結果の要旨

内側型変形性膝関節症に対する高位脛骨骨切り術（HTO）は有用な方法だが、人工膝関節置換術（TKA）に移行する症例もあり、その成績は脛骨近位端変形、膝蓋骨低位化等の問題点があり、一定の成績をあげていない。著者は HTO 後の TKA 症例 23 例 28 膝について問題点を検討し、成績不良因子を調べた。TKA 後臨床成績は、関節可動域：平均 90°、三大学試案：平均 72 点であり、70 点以上の成績が得られたのは 61 % であった。成績不良因子として、TKA 前の脛骨関節面の後方傾斜増強、TKA 前後での jointline 低下が認められた。HTO 後の TKA においては、様々な手術時技術的困難が存在し、その臨床成績は primary TKA に比しやや劣る傾向を認めた。これらの知見から本研究は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。